

## 2007 年度 日本草地学会若手の会 報告

### 1. 若手の会開催経緯

大学の教員で構成されていた草地学教育協議会が 2006 年度より草地学教育委員会として日本草地学会の 1 委員会となり、その活動内容の一つとして若手育成も視野に入れた。2007 年度相模原大会において、小集会「草地学分野でやってみたいこと、やって欲しいこと」を主催し、好評を得たことをきっかけに、若手が集まり、若手中心に草地学研究について考え、議論し、交流して活性化を図れるような場を設ける必要性を感じ、今回の夏合宿を企画した。

### 2. 2007 年度 日本草地学会若手の会

2007 年 8 月 2,3 日(木,金)に(財)神津牧場(群馬県甘楽郡下仁田町)で 21 名が参加して開催された。参集範囲は学会員、非学会員を問わず、草地・畜産に興味のある若手(学部生・大学院生・研究者・一般の方、おおむね 40 才まで)とした。日程は以下の通りである。

#### 8 月 2 日(1 日目)

- 12:00 佐久平駅集合
- 13:00 神津牧場到着
- 13:00 -14:00 昼食・ガイダンス
- 14:00 -15:00 神津牧場の概要および見学(清水 矩宏 場長)
- 15:00 -17:00 セミナー「君の研究テーマを神津牧場で役立てよう!!」  
「神津牧場の現状と問題点」  
(清水 矩宏 場長)  
「草と牛の境界：個体の生産からシステムの生産まで」  
(岐阜大学大学院 八代田 真人 助教)  
「7 年間の草地研究で感じたこと～複雑な放牧草地のモデル化の魅力～」  
(畜産草地研究所 中神 弘詞 研究員)
- 総合討論
- 17:00 -18:00 入浴(五右衛門風呂、牛乳風呂)
- 18:00 -19:30 夕食(鉄板焼き)
- 19:30 - 懇親会

#### 8 月 3 日(2 日目)

- 6:15 宿泊施設玄関集合
- 6:30 - 7:30 加工場見学
- 7:30 - 9:00 放牧実習および放牧場見学  
(畜舎から放牧地まで牛を連れ出し、放牧場見学)
- 9:00 -10:00 朝食
- 10:00 -11:30 放牧場見学(用途の異なる別の放牧場を見学)
- 11:30 -12:30 昼食
- 12:30 -13:00 閉会、解散
- 14:00 佐久平駅着

2日は13:00に神津牧場に集合し、昼食・ガイダンスの後、神津牧場の全体像をイメージできるように神津牧場場長の清水矩宏会員に牧場を案内して頂いた。



写真1 採草地での説明

神津牧場は谷間に位置するため、傾斜がきつく、機械が入って採草できる圃場が限られている



写真2 ジャージー牛

神津牧場ではジャージー牛を放牧し、また、自前で加工することで他との差別化を図っている

15:30 から 17:30 までセミナーを行った。「君の研究テーマを神津牧場で役立てよう！」をテーマに以下の 3 題の講演が行われた。本セミナーは、若手研究者に現場サイドの現状と問題点を認識してもらい、自分の研究の位置付けを広い視野から改めて見直しするとともに新たな研究シーズの発掘を目的とした。

- 1) 「神津牧場の現状と問題点」  
清水矩宏会員（神津牧場）
- 2) 「草と牛の境界：個体の生産からシステムの生産まで」  
八代田真人会員（岐阜大大学院）
- 3) 「7年間の草地研究で感じたこと ～複雑な放牧草地のモデル化の魅力～」  
中神弘詞会員（畜草研）

清水会員から神津牧場の歩み（日本酪農のパイオニア的役割を果たしてきたこと、自前で畜産物を加工・製造・販売という一環経営を行い、付加価値を高めている等）に引き続き、神津牧場の現状と問題点について、詳細なデータをもとに解説して頂いた。要点は以下のとおりである。

放牧牛飼養マニュアルを作成し、手順に従って生産している。

40年前までは牧牛を使っていたが、最近は人工授精に切り替わったものの、受胎率が悪い。人工授精に切り替えた弊害で蒔き牛を飼う技術が廃れた。放牧肥育では2年放牧後、1年は牛舎で肥育しているが、牛舎で飼うのが無駄ではないかという意見がある。

昭和62年からロールベール体系を取り入れている。

放牧圧が下がると草地が荒れるが、今までは荒れた草地の管理方法が無かった。今後は無線草刈り機で対応することを考えている。

収穫した草の状態は様々なので乳酸菌（畜草1号）を添加することで品質を保つようにしている。

一番の問題点として、飼料給与実績において自給飼料の採食量を逆算して求めているが、実際の採食量を把握できていない。計算によると自給率50%台だが、どうも値が違っているようである。

八代田会員から、牛1個体の生産性ではなく、土地面積あたりの生産性に着目した研究について、試行錯誤しながら取り組んできた過程を踏まえ、研究の進め方についてお話し頂いた。「研究結果は報文にまとめましょう」というくだりで、報文を書くことで第三者から研究内容について客観的な意見を聞くことができ、また、報文を書くことを前提とした実験・調査の組み立て方やデータの取り方を心懸けるようになったという話は自身の研究をブラッシュアップさせるには必要なことだと痛感した。

中神会員から、放牧草地のモデル化について、日常的な作業から取れるデータを用いてモデルを作る重要性とその難しさについて、また、現在構築しているモデルに季節変動を組み込めばさらに精度が良くなりそうであることをお話し頂いた。放牧草地の草量を把握するには複雑な要因解析が必要だが、それだけにだれにでも使いやすいモデルを作るのは魅力的であるとの話が印象的であった。

講演に引き続き、総合討論で現場と研究を繋ぐ活発な議論が行なわれた。論

議に上がった内容は「放牧適性とは」「放牧に対する技術の評価軸が必要」「正確な採食量をどのようにつかむか」であった。話の内容が大きすぎて結論までには至らなかったが、個々人が日頃の研究とは違った視野で考えるという目的は達成できた。



写真3 セミナー風景

セミナーでの緊張感をほぐすために夕食前に入浴タイムを設けていた。牛乳風呂は女性に先に入ってもらって、男性は露天の五右衛門風呂に順次入る予定だったが、セミナーが30分ほど長引いたため、五右衛門風呂の方は焚けずに、しばらくお預けとなった。

夕食は神津牧場産ジャージー牛の鉄板焼きだった。脂身の少ない赤身の肉で、肉本来の味を堪能した。さしの入り方で価格が決まる牛肉市場では放牧牛肉の価値が低くなるとの話が不当に思えるほど評判が良かった。各テーブルごとで盛り上がっていた。

夕食後、宿泊施設で懇親会を行った。各人の研究内容も含めた自己紹介を酒の肴に、若手同士の交流を深めるとともに熱心な議論が深夜まで展開された。研究で社会貢献するためにはどうすべきか、スケールの大きな研究をするために若手の会参加者で連携できないか、また、科研費等の競争的資金を取れないか、国際学会、近いものだと2009年の日中韓シンポジウムに今から準備してみんなで参加しよう等の草地学分野を活性化させる取り組みについても話が盛り上がった。男性には夕食後の懇親会の最中に牛乳風呂と五右衛門風呂に適宜入ってもらった。真っ暗な中での五右衛門風呂は風情があって楽しんで頂けたようであった。



写真4 懇親会での集合写真

3日は6:30より加工場を見学し、牛乳のパック詰め、バター、ヨーグルトやチーズ作りの概要について神津牧場職員の方から説明を受けた。バターは手間やコストがかかりすぎ、販売価格に反映しにくいこと、ソフトクリームが一番利益率が高いことなど、日頃接することのない営業や経営の話を知ることができた。引き続き、100頭ほどの牛を牛舎から放牧地まで歩いて移動させるのに同行し、放牧場の見学を行った。神津牧場では朝と昼に牛の行進と題して観光の目玉になっており、子供には大好評であるという。若手の会参加者も楽しみながら牛を追い立てていた。放牧場から帰って朝食を取った後、神津牧場職員の方々と日常で困っていることなどについて意見交換した。再び、放牧場見学して昼食後、12:00に現地解散し、初めての若手の会として盛会に終わった。

最後に、今回の若手の会開催に際し、皆様よりお志や差し入れをいただきました。事務局一同感謝申し上げます。また、このように有意義な場を提供して下さっただけでなく、企画から携わっていただいた清水矩宏会員はじめ、神津牧場職員の皆様にも厚く御礼申し上げます。

(日本草地学会若手の会事務局)